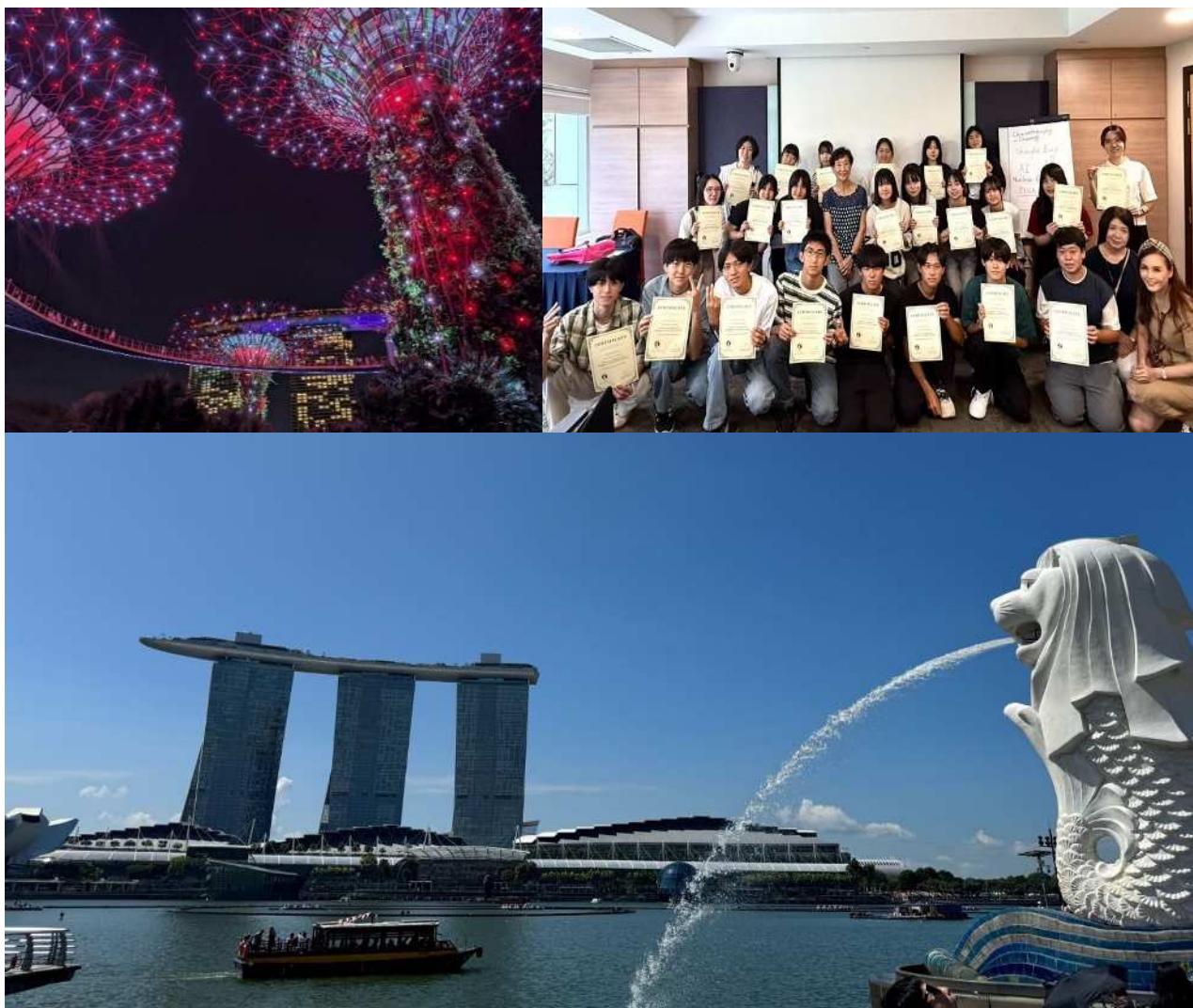


令和7年度 西尾東高校  
インターナショナル・  
インターンシップ・プログラム  
(シンガポール研修) 報告書



令和7年8月2日（土）～令和7年8月7日（木）

愛知県立西尾東高等学校

## 目 次

はじめに	1
参加者名簿	2
日程表	3
地 図	4
事前・事後研修について	5
ブラザー&シスタープログラム①	6
ブラザー&シスタープログラム②	7
千燈寺・龍山寺	10
リトルインディア・カトン地区	11
マリーナベイサンズ	12
ガーデンズバイザベイ	13
シンガポール大学講義①	14
シンガポール大学講義②	15
異文化交流プログラム	16
ラッフルズ卿上陸地点とマーライオン	17
マリーナバラージ・シティギャラリー	18
ナイトサファリ	19
文化について	20
My Best Memory	22
おわりに	31

## はじめに

西尾東高校インターナショナル・インターナンシップ・プログラムは、生徒の国際感覚を養い、進路実現の意識向上を図ることを目的とした事業であり、今年で8回目の実施となる。毎年多くの参加希望があり、今年は応募にあたり理由書の作成を課した。結果、2年生15名と1年生7名の目的と意欲に満ちた22名の生徒と、引率教員2名の計24名での実施となった。

訪問するシンガポールは、ASEAN（東南アジア諸国連合）の中心的な位置付けにあり、多民族都市国家として、現代の世界経済の中で大きな役割を果たしている。国全体が教育・研究を重視し、グローバルに活躍できる人材の育成に努めている。公用語は英語で、南洋理工大学や国立シンガポール大学をはじめとした世界トップクラスの教育機関・研究機関を有している。

多様な民族、言語、文化に触れつつ、近代都市としての利便性や安全性も兼ね備えたシンガポールの地で研修を行うことは、生徒にとって大変有意義な経験となる。地元の大学生と英語で会話しながら街を探索する「Brother&Sister プログラム」や、今年度の新しい試みである「異文化交流プログラム」では、日本・シンガポールの互いの文化や生活を紹介し意見交換をするなど、英語の運用能力の向上と異文化理解を促す活動が大きな特色となっている。また、国立シンガポール大学を訪れ、「シンガポールの歴史」「シンガポールの教育制度」について英語の講義を受ける経験も非常に貴重な機会となる。加えて、国立博物館、都市開発庁、水資源管理施設マリーナ・バラージ等の訪問では、現代シンガポールの国づくりについても学ぶ。なお、今年度は、前年度までのアンケート結果をふまえ、現地日本企業訪問の代わりに、英語学習と異文化理解に重きを置いた内容に一部を変更した。生徒の就業への意欲の涵養をねらいとする「インターナンシップ」についての研修内容は、次年度以降にあらためて検討をしていく必要がある。

訪問に先立つ事前研修では、英語学習をはじめ、訪問地に関する知識の習得、日本文化の紹介のためのプレゼンテーション準備や意見交換等を行う。また、帰国後の事後研修では、発表展示作成・報告書作成等の振り返りに加えて、各自が設定した探究テーマに関する英語レポートの作成を行うものとする。このように、当事業は参加生徒の資質向上に寄与するものとなるよう、十分に計画されている。

### チャンギ国際空港 Jewel

シンガポールは8月9日に独立60年目の節目を迎えた。自身としては今回が3度目の引率となるが、毎年新しい魅力や刺激を得ている。訪問地についてはもちろんだが、生徒たちについての新たな発見が多くある。英語以外の言語に堪能な生徒、リーダーシップを発揮する生徒、物怖じせず世界の様々な地域の人々とコミュニケーションを図る生徒など、東高生の知らなかった力や可能性を目にすることができた時、大きな喜びを感じる。当プログラムが、本校生徒の視野を広げ主体的に他者と協働する機会となり、スクールポリシーとして掲げる目指す生徒像の育成にとって、大きな一助となることを確信する。



最後に、御支援くださった同窓会並びにPTAの皆様に心より感謝申し上げます。 (稻葉)

令和7年度インターナショナル・インターンシップ・プログラム 日程表

日次 DAYS	月日 DATE	都市名 CITY	現地時間 LOCAL TIME	概要 REMARKS
1	2025年 8月2日 (土)	中部国際 空港 シンガポ ール	8:00 集合 10:25 出発 【SQ671】 16:00 到着	中部国際空港に集合 出発あいさつ 〔出国手続き〕 中部国際空港よりシンガポール航空にて空路 チャンギ国際空港へ 到着後、バスでシンガポール市内へ移動 レストランにて夕食後、ホテルへ
2	8月3日 (日)	シンガポ ール	9:00~17:00	終日：ブラザー&シスタープログラム 生徒3~4名につき現地大学生ガイド1名が同行し、 公共交通機関を利用しての街中班別学習
3	8月4日 (月)	シンガポ ール	9:00~12:00 13:30~15:00 16:15~20:00 20:00~21:00	バスにて視察研修へ(現地添乗員とともに) 午前：リトル・インディア地区 千燈寺院、龍山寺 を見学後、カトン地区自由散策 午後：シンガポール国立博物館見学 マリーナ・ベイ・サンズ自由行動 夕刻：MBS スペクトラショー、GBTB ラプソディー ショー鑑賞
4	8月5日 (火)	シンガポ ール	8:15 発 8:40 着 9:00~10:30 10:40~12:10 14:00~17:00 18:00~20:00	バスにて国立シンガポール大学へ 国立シンガポール大学にて英語による体験授業 体験授業①：シンガポールの歴史・文化講座 体験授業②：シンガポールの教育について B&S ディスカッション（異文化交流プログラム） 大学生5人を迎える、意見交換会 大学生2名を交えて夕食懇親会
5	8月6日 (水)	シンガポ ール	9:30 発 10:00~11:30 13:00~18:00 19:00~21:00 22:00	バスにて視察研修へ(現地添乗員とともに) 午前：ラッフルズ卿上陸地点、マーライオン公園見学 午後：マリーナベラージー、 都市開発庁（シティーギャラリー）見学、 ガーデンズ・バイ・ザベイ（SKY WAY）と園内散策 夕食後、ナイトサファリ観光（英語トラン）へ チャンギ国際空港へ(現地添乗員とともに)
6	8月7日 (木)	シンガポ ール 中部国際 空港	01:20 出発 【SQ672】 9:00 到着 10:00 解散	チャンギ国際空港よりシンガポール航空にて空路 中部国際空港へ 中部国際空港到着〔入国手続き〕



## シンガポール地図と行程

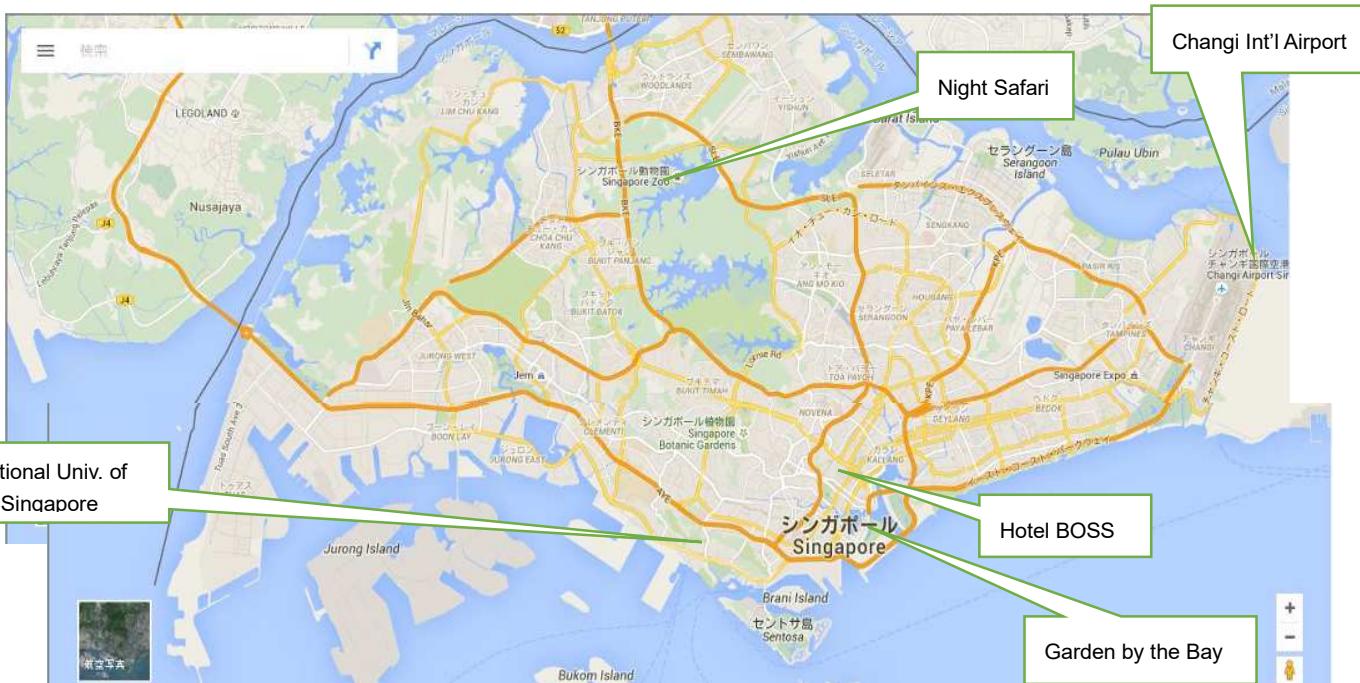


### セントレア

⇒シンガポール（チャンギ国際空港）

(約 5,000km)

札幌～那覇が約 2,300km のため、およそ往復する距離。



ホテルボス(HOTEL BOSS)に宿泊し、リトルインディア地区、カトン地区等を見学し、国立シンガポール大学(National Univ. of Singapore)を訪問しました。

また、都市開発庁(City Gallery)、マーライオン公園(Merlion Park)、マリーナバラージ(Marina Barrage)、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ(Gardens by the Bay)、ナイトサファリ(Night Safari)等の見学をし、チャンギ国際空港(Changi Int'l Airport)から帰国しました。



シンガポール航空SQ671(セントレア発)

## 事前・事後研修について

以下のような会合を実施し、研修旅行に備える。

○研修会 : 生徒対象の勉強会（シンガポールの歴史・文化・国づくり、英語学習等について）  
担当…引率教員、於…多目的室（アクティブラーニングルーム）

○保護者説明会 : 生徒及び保護者への連絡会（渡航の準備・費用等について）  
担当…引率教員及び旅行業者、於…多目的室（アクティブラーニングルーム）

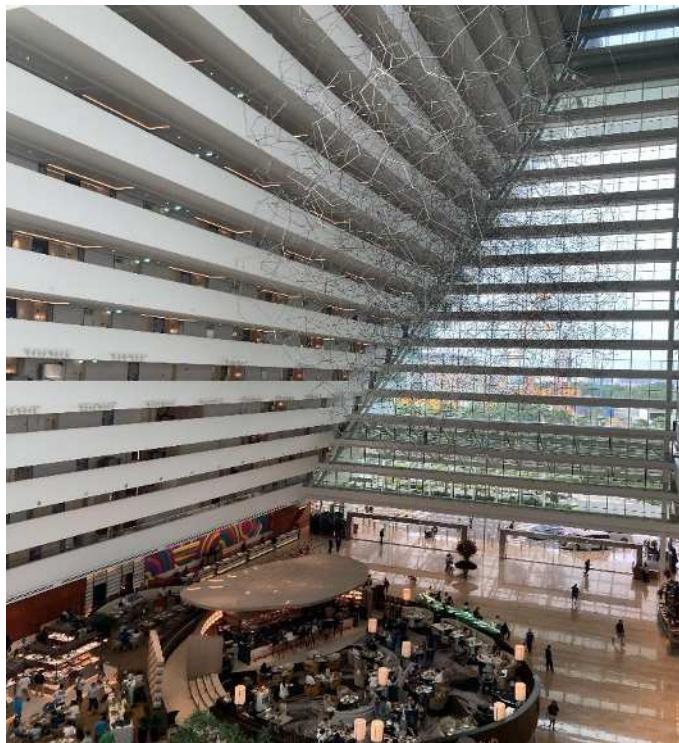
	日付	時間	場所	内容
ミーティング	4/28 (月)	12:45～	多目的室 (アクティブラーニングルーム)	顔合わせ 名前・緊急連絡先・スケジュール等確認 第1回研修会について連絡
第1回研修会 第1回保護者説明会	5/16 (金)	13:00～14:00 14:30～15:30	多目的室 (アクティブラーニングルーム)	英会話：ジェラルド先生と話そう！① 自己紹介 引率者紹介、事前指導・準備日程説明 名観担当より日程・シンガポール情報・諸手続きについて説明
第2回研修会	5/23 (金)	16:00～	多目的室 (アクティブラーニングルーム)	英会話：ジェラルド先生と話そう！② 先輩の報告書より情報共有
第3回研修会	6/10 (火)	16:00～	多目的室 (アクティブラーニングルーム)	英会話：ジェラルド先生と話そう！③ 訪問地予備知識、ホテル部屋割 Research Report の作成について
第4回研修会	7/11 (金)	16:00～	多目的室 (アクティブラーニングルーム)	英会話：ジェラルド先生と話そう！④ B&S プログラムのメンバーを発表 B&S プログラム計画 Research Report テーマ決定
第5回研修会	7/18 (金)	12:30～	多目的室 (アクティブラーニングルーム)	英会話：ジェラルド先生と話そう！⑤ 異文化交流プログラムのプレゼンテーション準備 B&S プログラム計画、事後研修役割決定
第6回研修会 第2回保護者説明会	7/23 (水)	13:00～14:00 14:30～15:30	多目的室 (アクティブラーニングルーム)	英会話：ジェラルド先生と話そう！⑥ B&S プログラム計画、異文化交流プログラムのプレゼンテーション準備 旅行準備説明、しおり配付、保険申込み
第7回研修会	7/29 (火)	13:00～	多目的室 (アクティブラーニングルーム)	講義①：“History of Singapore”を読んで 異文化交流プログラムのプレゼンテーション予行練習、B&S プログラム計画、訪問地予備知識直前確認事項・事後研修等について

※事後研修…8月18日（月）、19日（火）、9月4日（木）～8日（月）文化祭展示発表準備、

⇒9日（火）文化祭（全員）

研修報告作成（全員）、Research Report 作成（全員）⇒8/21 提出締切 ⇒冊子まとめ

## 8月3日(日) Brother & Sister プログラム①



大学生と共に回った場所の中でも、僕はマリーナベイサンズが特に印象に残っています。マリーナベイサンズは地下2階から2階まである巨大ショッピングモールのような観光施設で横に広い建物です。マリーナベイサンズの中には数多くのお店があり、その中には日本でも聞くような有名ブランドがたくさんありました。

僕たちはあまり人がいない時間帯に行ったので、いろいろなお店で商品を見る事ができました。マリーナベイサンズでお土産を買ったとき 80 シンガポー

ルドルほどかかり、驚きが隠せませんでした。

マリーナベイサンズは大きな商業施設であると同時に、観光施設でもあるためか夜になるとショーも行っていました。

僕はマリーナベイサンズ以外にもムスタファセンターに行きました。そこでは食材やお土産が格安で買うことができ、日本で言うドンキーホーテのような場所でした。特に驚いたのが万引き防止のために店に入る前に、結束バンドでカバンのチャックなどを固定されることでした。万引き防止としては最適であり、日本でも導入して良いと思いました。

プログラム前は不安でいっぱいでしたが、いざ話し始めると昔と同じように聞き取れることや喋ることができ、成長を感じることができました。またシンガポールにもう一度行けるならば、もっと現地の人の生活などをもっと知りたいです。  
(1年榎原)

## 8月3日(日) Brother&Sister プログラム②

8月3日に行われたB&S プログラムでは、私達のグループは現地の大学生と一緒に沢山の場所へ行きました。私のレポートのテーマは「交通について」で、大学生も質問にたくさん答えてくれました。また、テーマ以外のことでも、たくさん学びがありました。

最初は地下鉄 MRT の Lavender という駅に行きました。ホテルから一番近い駅です。そこで、私達は Ez-Link カードを購入しました。Ez-Link カードは日本で言う交通系 IC カード、Suica や manaca と同じようなものです。ただ、日本の IC カードと少し異なる点は、そのカードを使うと料金が大変安くなることです（首都圏の一部の鉄道は IC カードを利用すると 2~5 円ほど安くなるがそれとは比べ物にならない）。発売額は 10 \$ で、Deposit（預り金）として 5 \$、あとの 5 \$ はすぐに使えます。私が購入したカードは、トムとジェリーが描かれていました（写真 1）。



（写真 1）「Ez-Link カード」

MRT の駅はほとんどの駅でエアコンがきいていて、とても涼しかったのを覚えていました。日本に帰国してからの日本の駅は、エアコンが間に合っていない公共施設が多いなとより感じるようになりました。また、駅に入って電光掲示板を見るとな、発車時刻が書いてあります。ですがそのかわりに、到着までの所要時間が書いてあります（写真 2）。MRT は大変高頻度運転ですから、利用者にとっては到着までの時間がわかった方が便利なのでしょう。また、運営側としても時刻表通りに運転するよりも、間隔で運転した方が楽です。これは日本の鉄道にもぜひ導入してほしいシステムだと思いました。



（写真 2）「電光掲示板」

さあ、そんな MRT を使って行ったところは、マリーナ・ベイ・サンズ、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、サルタン・モスク、伊勢丹シンガポール店、ムスタファセンターでした。

サルタン・モスクについて紹介します。サルタン・モスクは名前にもある通りイスラム教の礼拝所です。ここもまた独特な雰囲気でした。中には、大きな部屋が一つ（写真3）。観光客が入っていいのはここまでです。外装からは他の部屋も見えましたが、入って見学することはできませんでした。サルタン・モスク内部にはたくさん的人がいました。老人の方や家族連れの方、若い方など、老若男女問わずたくさんの人です。また、中へ入るには靴を脱がなければならず、観光客向けの下駄箱もありました。とても神聖な場所でとても静かでした。私達も中で10分ぐらい滞在しました。



（写真3）「サルタン・モスク内部」

また、他に行ったのはムスタファセンターでした。簡単にまとめると、シンガポール版ドン・キホーテです。ただ、中や周辺はあまり治安が良くなく、独特な匂いがしました。それに、中に入るときには、持っている手荷物の口に結束バンドを締められました。これはどうやら万引き対策だったようです。突然警備員の人に、「STOP!」と声をかけられたため、焦りました。あそこは旅の上級者が行くところ…、初心者には正直オススメできません。

時系列が前後しますが昼食の話題。私達はシンガポールの有名な「ペーパーチキン」をいただくため、Hillman Restaurant（ヒルマン・レストラン）へ行きました。そこでは、チャーハンとペーパーチキンを頂きました。これが非常に美味しく、シンガポールで食べた中で一番美味しかったです（写真4）。シンガポールのレストランで食事をすると、消費税9%に加えサービス税10%もかかってしまうため大変高価だったと記憶しています。ですがそれに見合った美味しさ。気になった方は大阪に日本店がありますから、ぜひ大阪に行った際は食べてみるといいかもしれません。また、その店で水を頼んだのですが、なんと3\$以上（日本円で約350円）。高い！これもびっくり…。どれだけ飲料水が貴重なのか伺えます。



（写真4）「ペーパーチキン」

Hillman Restaurant を出てすぐに大雨が降ってきました。また眼前にも雷が落ち、大変怖かったです。そんな中でも現地の人たちは平気そうにスマホを見ていました。シンガポールでは天気の急変はよくあるようで、通り雨がほとんどだそう。その雨も 45 分ぐらいでやみました。もともと、次の駅まで歩き MRT で行く予定でしたが、大学生が機転を利かせてバスで行くことになりました。バス停は大変な行列でした。私達が乗ったバス停は、多くの種類が止まるバス停だったようで、間髪入



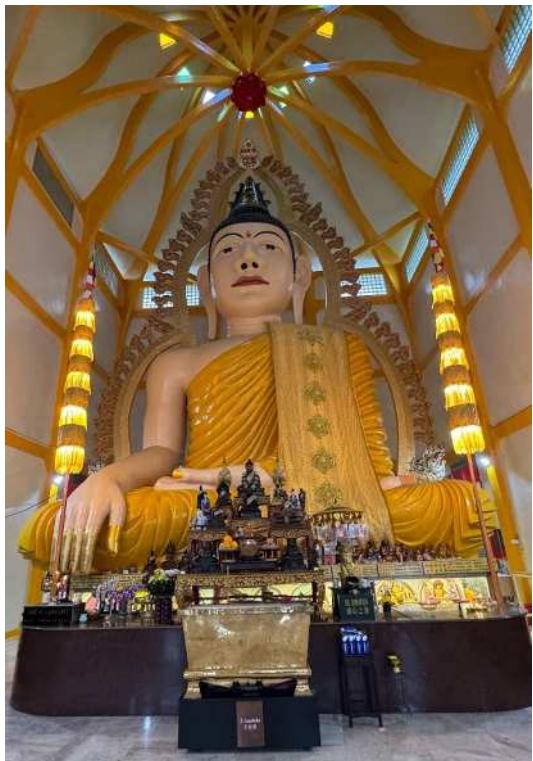
(写真 5) 「次は>>YMCA」

れずにバスがやってきます。10 分ぐらいたち、2 階建てバスに乗車しました。その中で衝撃だったのは、バス停「YMCA 停留所」。思わず放送をきいたときに電光掲示板を二度見しました（写真 5）。YMCA 停留所、なんでそんな名前になったのでしょうか…。未だにわかりません。

たくさんの発見があったシンガポール。ネットで見た情報や人からきいた話と全く違うところもたくさんありました。自分で予定を計画し、自分で行きたいところへ行く。そんなとても貴重な経験をさせてもらいました。この B&S プログラムの経験を今後の人生に活かして行きたいです。（1年 岩月）

## 8月4日(月) 千燈寺院・龍山寺

この日はリトルインディア地区の千燈寺院と龍山寺という二つのお寺を訪れました。どちらも歴史のある建物で、それぞれに違った雰囲気や魅力があり、とても印象に残りました。



千燈寺院

千燈寺院には高さ 15 メートルもある大きな仏像があり、実際に目の前に立つと、とても迫力があり、厳かな雰囲気の中で光に包まれるような感じがしました。建物の下には涅槃仏もあり、仏教の歴史や教えを少し身近に感じることができました。また、このお寺がタイの僧侶によって建てられたことや、「タイガーバーム」という薬を作った兄弟が寄付をしたことを知り、異文化のつながりも感じました。

龍山寺は、千燈寺院とはまた違った雰囲気でした。中国風の伝統的な建築で、屋根や柱には細かい装飾があり、とても綺麗でした。ここは航海の神様である媽祖を祀っていて、昔シンガポールにやってきた中国の人々が安全を祈った場所で、今も国家記念碑として大切に守られていることから、地域の人々にとって大切な存在であることが伝わってきました。 (2年 梅井)



龍山寺

## 8月4日(月) リトルインディア・カトン地区

リトルインディアは文化的で活気のある、インド系住民の集住地です。寺院とモスクストリートアート、セラングーンロードを中心に広がっています。19世紀にイギリス植民地時代のシンガポールにインドからの移民労働者が多く集まり、形成されました。現在では、鮮やかな色彩の建物や寺院、スパイスの香りが漂う市場、インド料理レストランなど、インド文化を体験できる場所として知られています。（2年 杉浦）

リトルインディアは、スリ・ヴィラマカリアマン寺院など、鮮やかな装飾や緻密な彫刻を持つヒンドゥー寺院が並び、シンガポールの象徴としても知られています。モスクや仏教寺院など多様な宗教の建物が共存しているのも特徴です。また、街を歩くとかつてのリトルインディアの日常を描いた色とりどりの壁画アートにも出会えます。シンガポールの他のエリアとは違った独特の雰囲気を楽しむことができます。（2年 榊原）

カトン地区は、シンガポール東部にある歴史的でカラフルな街並みが特徴のエリアです。もともとはプラナカン文化の中心地として発展しました。プラナカンとは、中国系移民とマレー文化が融合した民族で、独自の文化や伝統を持っています。カトンには、パステルカラーのショップハウスやモザイクタイルで飾られた建物が立ち並び、写真スポットとしても人気です。また、ラクサ（ココナッツ風味のスパイシーな麺料理）で有名で、食文化も魅力の一つです。カフェや雑貨店も多く、シンガポールの伝統と現代が融合した雰囲気を楽しめます。（2年 杉浦）



シンガポールのカトン地区は、色鮮やかなプラナカン建築やシンガポールの多文化的な魅力を感じることができるエリアとして知られています。プラナカン文化は、中国系移民とマレー系の文化が融合した独特な文化であり、その影響を受けた歴史的な建築が楽しめます。カトン地区を訪れると、色とりどりのプラナカン建築が目に飛び込んで

きます。プラナカン建築は、カラフルなペイントや華やかなタイルで装飾されており、多くの観光客を引き付けています。（2年 榊原）

## 8月4日(月) マリーナベイサンズ



マリーナベイサンズは、シンガポールを代表する統合型リゾートで、三つの高層ホテルの上に船のような形をした空中庭園があるのが特徴です。館内には世界的ブランドが集まるショッピングモールや、カジノ、美術館、レストランなどが揃っています。自由時間で、買い物や食事を楽しみました。中にあるお店

は高級ブランドが多く、買える物が限られていきましたが、自分たちで調べたお店に行き、ショッピングをしました。TWGでお茶を買ったり、Bacha Coffeeでコーヒー買ったりした人が多かったです。

その後、夜には行われる光と音のショー「スペクトラ」を鑑賞しました。噴水やレーザー、音楽が融合したダイナミックな演出で、とても幻想的な時間を過ごせました。みなは、きれいなショーに感動し、手を伸ばして動画を撮影していました。(亀山)



## 8月4日(月)・6日(水) ガーデンズバイザベイ

ガーデンズバイザベイは、シンガポール最大の植物園であり、注目度が高いのは、「スーパーツリー」です。「スーパーツリー」とは、高さ約20m～50mの人工的な木が18本あり、その幹の周りをアナナスやシダ類、亜熱帯地方のつる性の植物が植えられています。

夜にはガーデン・ラプソディ（ラプソディーショー）と呼ばれるショーが毎晩行われており、私たちは三日目に見に行きました。音楽に合わせてライトアップされるスーパーツリーは非日常的で、とてもきれいでいた。見るときに多くの人が寝転がってみたり、座ってみたりと楽しむことができ、周囲も見えるように配慮しているところも、シンガポールの良いところだなと感じました。

（右ガーデン・ラプソディ）



最終日には「OCBC スカイウェイ」というアトラクションを体験しました。幹をつなぐように作られた高さ22m、全長128mの遊歩道を歩くというものです。上から見る景色はこの植物園全体を見渡せることができ、海も見ることができ、とてもきれいでいた。高いうえに周り柱はなくワイヤーだけで揺れるので、

怖がっているメンバーも見られました。

（左 OCBC スカイウェイの眺め）



自由時間の時に園内を回ったのですが、日本にはないような植物が多くみられて、面白かったです。詳しく見ることのできる温室やブースは有料で、みることができませんでしたが、無料で行ける範囲でも面白い植物が沢山あつたしきれいなフォトスポットのようなものもあってとても楽しむことができました。（2年 樋口）



3日目の夜にラプソディーショーをみました。にぎやかな音楽と、光の演出がとてもバリエーションが豊富で、とても綺麗で、楽しかったです。ほとんどの人たちが寝転がってみていきましたが、そうするほうが首が痛くならないで最善策だと感じました。5日目の昼に行った時は、ショーの時とはまた違う特別感がありました。橋の上から見る景色はとても綺麗でした。思ったより高くなかったので、高所恐怖症の私でも全く大丈夫でした。（2年 鈴木）

## 8月5日(火) シンガポール国立大学講義①シンガポールの歴史

私たちは研修四日目に NUS (シンガポール国立大学) に行き、教授による講義を英語で受けました。一つ目の講義ではシンガポールの歴史について学びました。

シンガポールの歴史の始まりは、1829 年に遡ります。イギリスから来たラッフルズ卿によって、シンガポールは貿易港や東インド会社の拠点として設立されました。そして、マレーシア、中国、インド、アラブから仕事を求めて沢山の人々がシンガポールに来ました。1826 年にはイギリスの植民地となり、1922 年には東アジアにおけるイギリスの主要基地となりました。しかし、第二次世界大戦がはじまると、イギリス軍は国へ戻り、1942 年にはマレーシアが日本の統治下におかれ、シンガポールは降伏を余儀なくされ、日本の植民地となります。終戦後イギリスはシンガポールに戻ってきて、軍による政治を開始し、

シンガポールは海峡植民地となりました。その後イギリスによる植民地支配に反対した人々により、リー・クアンユーら率いる PAP (人民行動党) が設立されます。PAP の影響もありシンガポールは、マレーシアの設立を成功させ、イギリスからの独立も成功させました。しかし、シンガポールとマレーシアの間にも対立が生まれてしまい 1965 年、マレーシアから独立します。そして独立したシンガポールの初代首相としてリー・クアンユーが選ばれました。



このようなシンガポールの歴史の一連の流れを学び私は、今まで太平洋戦争については理解していたが、日本が植民地支配をしていた歴史などまだ知らないことが沢山あるなと思いました。また、そのような過去を乗り越えて、今のシンガポールがあるのだと言う事もよく分かりました。(2年 藤川)

## 8月5日(火) シンガポール大学講義② シンガポールの教育

私は、シンガポール国立大学に行き、現地の大学教授の講義を受けました。シンガポールにおいての唯一の資源は「人」です。なので、シンガポールは教育に力を入れています。

シンガポールの教育は、日本と比べてとても複雑です。シンガポールの小学校は6年間、中学校は4から5年間、日本でいう高校に当たる中等後教育は1から3年間ありますが、中学校からは義務教育ではありません。また、小学校を卒業する際には、PSLE(Primary School Leaving Examination)と呼ばれる卒業試験を受け、そのテストの結果によって、中学校のコースが決まるそうです。日本では、住んでいる地区によって中学校が決まりますが、シンガポールでは、テストの成績で、普通の中学校に進むのか、技術系の専門学校に行くのかが決まります。この制度については、現地の教授も「厳しい」と感じていましたが、この厳しい教育制度があるからこそ、イギリスやアメリカの大学よりも高い成績を取ることができます。と思いました。

シンガポールの大学進学率は、半分以下の3から4割程度で、日本の6割と比べるとかなり差があるな、と感じました。大学の選抜の厳しさから、そういうデータが取れたのかなと思いましたが、それだけではなく、PSLEによるものもあると言わされました。シンガポールでは、一度進路が決まると、軌道修正が難しいところがあります。納得すると



同時に、大学での知識がなくともできる仕事に人を割り振ることができるからいいのかなとも思いました。そういう背景もあって、シンガポールの大学進学率は低く抑えられているのだと感じました。(2年 伊藤)

## 8月5日(火) 異文化交流プログラム

僕たちはシンガポール研修4日目に異文化交流を行いました。異文化交流では各班につき1人の大学生に事前に準備した日本のことについての発表をしたり、質問したり、お喋りをしたり、トランプで遊んだりしたりもしました。発表では感想やアドバイスを貰いました。みんなで英語で交流し、とても貴重な経験をすることが出来たなど、嬉しく思いました。今後自信に繋がる経験であったかもしれない、無意味なものにせず自分の今後に活かしていきたいと思いました。(2年 杉浦)



現地の大学生とUNOを使って一緒に遊ぶことで、リラックスした雰囲気の中で自然に英語を話すことができました。カードゲームを通して盛り上がり、笑い声が絶えず、言葉の壁をあまり感じずに交流できたのが印象的でした。遊びながら英語を使うことで表現力も少しずつ自信につながり、学びと楽しさを同時に体験できた貴重な時間となりました。さらに、ゲーム中に相手のユーモアや文化的な表現を知ることができ、英語だけでなく異文化理解の面でも多くの発見がありました。日本の曲や、マンガ、アニメについて詳しいのが意外でした。(2年 岡田)



## 8月6日(水) ラッフルズ卿上陸地点・マーライオン公園



私はシンガポール研修5日目に、ラッフルズ卿上陸地点とマーライオン公園へ行きました。ラッフルズ卿上陸地点とは、シンガポールをイギリス植民地として開発したスタンフォード・ラッフルズ卿が初めてシンガポールに上陸した記念の地。1819年1月28日に初めてシンガポーラ Singapura に上陸し、何もない未開地だったこの地を貿易の中継地点として繁栄させたラッフルズ卿の功績はとても大きく、現在でもシンガポーリアンに慕われているそうです。

マーライオンとは伝説上の動物で、上半身はライオン、下半身は魚の姿をしています。口から水を吐き出すマーライオン像は、高さ 8.6m、重さ 70 トンです。マーライオン公園にある本体像は、東の方角を向いて設置されています。これは風水において非常に縁起の良い方向とされており、成功や繁栄を呼び込むと信じられています。さらに、マーライオンの口から絶え間なく流れ出る水は、「富が絶えず流れ込む」ことを象徴しています。(1年 板倉)

シンガポール研修5日目はラッフルズ卿上陸地点とマーライオン公園を訪れました。ラッフルズ卿上陸地点とは、1819年1月29日、イギリスのトマス・スタンフォード・ラッフルズが初めてシンガポールに上陸した記念の地です。彼は貿易の拠点となる自由港を開港し、シンガポールを大きく発展させ、シンガポール建国の父と呼ばれるようになりました。その功績が称えられて記念に像が造られ、今ではシンガポールを象徴する観光名所の一つとなっています。

マーライオン公園には、シンガポールのシンボルとなっているマーライオンがあります。ライオンの頭と魚の下半身を持っており、その理由は、11世紀にマレーシアの王族が島に上陸した際にライオンを発見したという伝説と、シンガポールがかつて漁村だったという土地の歴史が組み合わさって生まれたからだそうです。(1年 三浦)



## ・マリーナバラージ

シンガポールの一部低平地を洪水から守るという重要な役割を果たしています。豪雨時には、ダムの 9 つの水門を開けて、過剰な雨水を干潮時の海に放出します。シンガポールの緑化政策について詳しく知りたいときは、サステナブル・シンガポール・ギャラリーに行くと詳しく教えてくれます。環境問題や水問題を体験型マルチメディアディスプレイ、展示、ゲームを通して説明しています。この屋上広場は、無料で 24 時間解放されていて、シンガポール市民の代表的な広場となっています。

## ・シティーギャラリー

近年のシンガポールの著しい変化に特化したギャラリーの展示物が見れる 1999 年に設立された博物館です。街作りを体験したり、シンガポールの自然保護努力を理解したりすることができ、ほかの体験型アクティビティもあります。シンガポールの感動的な歴史にも没頭でき、多感覚情報を活用した展示を行っています。重要な見どころの 1 つが、光と音でリアル感を演出した、市中心部を俯瞰できる巨大建築模型です。ほかにも、日の出から日没まで、シンガポールの日常生活を描く 270 度パノラマ画像が見学者を囲むアトラクションもあります。

## 8月6日(水) ナイトサファリ

最終日の夜、ナイトサファリに行きました。トラムに乗って英語の説明を聞きながら暗い中、たくさんの動物を見ました。見たことのない動物ももちろんいましたが、シカがとにかくたくさんいました。トラムに乗りながら動物たちを見る時間は楽しくもリラックスした時間でした。（2年 鈴木）



## 文化について

### ・シンガポールの食事について



シンガポールは様々な民族の人が暮らしている、多文化共存都市です。マレー、中国、インド、ヨーロッパなどの文化が融合されています。

そのため、色々な種類の料理があります。中華料理、インド料理、マレー料理のほかにマレー料理と中国料理が融合した「プラナカン料理」が有名です。プラナカン料理は「ニヨニヤ料理」とも言います。私は、プラナカン料理の中でラクサを食べました。スパイスが効いていて辛さの中にココナッツのまろやかさがあり美味しかったです。全体的に香辛料などで味付けされたスパイシーな料理が多いなと感じました。

シンガポールの大学生にシンガポールの国民食を聞いたところ、多くの学生がチキンライスをあげました。名前の通りご飯の上にチキンの乗ったシンプルな料理ですが、一緒に食べるスープと上にかけるチリソースとの相性が良く美味しかったです。

シンガポールの現地の人は外食が多いそうです。大学生に聞いてみたところ、シンガポールの人は親が共働きだったり、学校などが忙しいため朝食も外食が多いらしいです。そんなシンガポールの朝食で有名なのが、カヤトーストです。ココナッツミルクと卵と砂糖が合わさった、カヤジャムをパンに挟み、温泉卵とコーヒーと一緒に食べます。カヤトーストの店にはどこも行列ができるおり、その人気さが感じられました。シンガポールでは色々な国の食文化を体験することができて、楽しかったです。（2年 鈴木）

### ・生活について

シンガポールの建物の特徴はビルやマンションなどの高い建物が多くあり、東京のような街並みでした。また、シンガポールで一軒家に住んでいる人は非常に少数で一部の裕福な人達が住んでいます。ほとんどの人は高層マンションに住んでいるようで、庭付きの家を持っている人は、ほとんどいないそうです。そして、シンガポールは1年中暑いので多くの家でエアコンが設備されているらしいです。（1年 金沢）

#### ・交通について



シンガポールの交通は車道は左側通行でした。日本以外全部右側通行だと思っていたので、自分の常識が覆りました。調べてみると、車道が左側通行の国は53ヶ国で主な国は日本・イギリス・インド・オーストラリアなどでした。もう少し調べてみると、日本の場合江戸の習慣で、武士は刀を左腰に差していたため、道ですれ違う時に「左側通行」の方が鞘同士がぶつかりにくく、喧嘩を避けられたとも言われています。また、街道では人や駕籠が多かったので、自然と「左側通行」が定着していったようです。シンガポールの場合、19世紀から第二次世界大戦までイギリスの植民地で、イギリス本国と同じく「左側通行」を導入したところ、独立後も道路や車両の仕組みを大きく変えるのは非効率なため、そのまま左側通行を維持しているとも言われています。走っている車はだいたいトヨタかホンダであり日本と変わらないことに安心感がありました。（2年 普名）

#### ・シンガポールについて



僕は日本しか見てこなかったので、シンガポールのことを知って、とても衝撃を受ける場面が多かったです。シンガポールのリトルインディアでは、沢山のインド人が祈祷をしており、日本では見られないような光景が広がっていました。また、道を歩いているだけで、マレー系、中華系、インド系、その他の人種の人達がいました。

のでもちろん人種によって話す言語も違うし、お店の看板の言語、料理も様々でした。さら

に、あれほど栄えているのに、道端にゴミがほとんど捨てられておらず、街全体が綺麗なまま保たれているのも衝撃でした。シンガポールの法律は、とても厳しいけど、その恩恵を受けていると身体全体で感じることができました。（2年 德倉）



## My Best Memory

僕のシンガポールの一番思い出はガーデンズバイザウェイで見たショーです。ショーを見る前に見たスーパーツリーとは全く違う印象を持ちました。ショーの中で流れていた曲が全てシンガポールについての曲だったところが僕の中で一番印象に残りました。15分程の短いショーでしたがプロジェクションマッピングがきれいでつい見入ってしまいました。当日の夜、夜遅くにも関わらず観光客などの人々が多く集まっており、ガーデンズバイザウェイのプロジェクションマッピングは人々を魅了する程にきれいなのかなと思いました。(1年 楠原)



今回のシンガポール研修で印象に残っているのはマリーナベイサンズの買い物とホテルです。マリーナベイサンズではブランドの店が並んでいて凄かったです。お土産もたくさん買えてとても楽しかったです。ホテルではみんなで集まって、マックを食べてシンガポールのスパイシーチキンが辛くて騒いだり、夜遅くまで友達と話して次の朝に寝坊したり、お風呂から出たらみんなが居てすぐ話せたりするのが超めちゃくちゃ楽しかったです。なので、もう一度同じ人達で行きたいです。(1年 金沢)

私が一番心に残っているのは、マリーナベイサンズのショーです。このショーは、光と水、音楽を組み合わせた幻想的なショーです。噴水にウォータースクリーンの映像もありました。光と音楽の迫力が凄くてとても感



動しました。完成度が高く、驚かされました。多くの観光客や地元の人々が集まっていた、人気が高いことがわかりました。15分という短い時間だったけどあっという間に終わりました。(1年 平川)

私が一番楽しかったのは、ナイトサファリです。世界で最も珍しい夜の動物園で、夜行性動物がたくさん見ることができました。ライオンやフラミンゴ、象、かばなどがいました。日本で見る動物よりも、夜にシンガポールで見た動物の方が、とても魅力的に感じました。また、実際にはそんなに見られていないけれど、900匹以上の夜行性動物がいると知りました。いつかシンガポールにまた行った時には、もう一度ナイトサファリを訪れて、今回より多くの動物を見たいです。（1年 杉浦）

私はこのシンガポール研修で、初めて海外へ行きました。最初は不安でしたが、実際に行ってみると現地の人が優しく話してくれ、とても楽しかったです。私の一番の思い出は、大学生と交流したことです。大学生と一緒に水族館へ行ったり、お買い物をしたりしました。水族館は新しく、とても賑わっていました。また、魚の名前を教えてもらいました。日本語と英語で言い方が全然違う魚ばかりでした。買い物ではおすすめのお菓子を教えてもらいました。日本ではあまり見ないお菓子ばかりでしたが、どれも美味しかったです。移動では電車に乗りました。日本の電車とは違うところがたくさんあり、切符は無く全てカードでした。駅のホームでは、落ちないように柵がついてました。とても安全だなと思いました。シンガポールは日本と全然違うところが多く、驚きと発見が多かったです。とても良い経験になりました。また行きたいです。（1年 板倉）

私がシンガポール研修で一番心に残っている思い出は、英語で現地の方と話せたことです。B&S プログラムや異文化交流プログラムで現地の大学生とお話ししたり、研修で用意されていたプログラム以外でも、ホテルのスタッフさんに両替のやり方を聞いた時や街中で散策している時、レストランで注文をする時など英語を話す機会がたくさんありました。

特に印象に残っているのは自由行動の時間で街中のマクドナルドに行った時のことです。店内にあるタッチパネルでのオーダーだったのですが、私の前にいた人がやり方が分からず困っていたのを英語を使って助けることができました。「オーダーのやり方が分からない、教えて欲しい。」と聞かれた時は突然のことに驚いて、英語でしっかり伝えることができるのか不安でしたが、上手く話せたみたいで、お礼を言われた時は、私の英語で人の助けになれたのがとても嬉しかったです。

勇気を出して話してみたことで、自分の英語に自信が持てるようになりました。シンガポール研修を通して、自分自身が成長できたと思います。日本ではあまりネイティブの人と英語を話す機会がないので、英語で話すのがとても楽しかったです。（1年 三浦）

今回のシンガポール研修での一番の思い出は、自分の英語が通じたという経験です。私は5歳の頃から英語を習っていて、現在も学習中です。

高校受験のとき、英語の文法の学習が足りていないと痛感しました。単語力には結構自信があったのですが、文法がなかなかできませんでした。受験では、慣れることを優先して、たくさんの文章に触れました。その甲斐あってか、結構な点数を取ることができました。また、私はイギリス英語を主に学習しており、学校のアメリカ風の英語学習になかなか慣れることができませんでした。ですが、シンガポールでは私が学習していたイギリス英語風で、とくに「Centre」のスペルや「via」の読み方、「mind」を好む表現、子音が刺さるような発音…全部自分が学んだことがそのまま出てきているのかと思いました。この感動は凄まじかったです。また、うまく話すことはできなくても、相手に自分の意志を伝えることや、相手の英語をしっかりと聞き取ることがとてもできていたと思います。わからない単語や表現があっても、スマホですぐに調べられる。もしも困っても翻訳アプリがある。便利な時代になりました。これらに頼ることは褒められたことではありませんが、このバックアップの大きさによって、気持ち的に余裕が生まれたのも事実です。伝えることがどれほど大切なのかを学んだ6日間になりました。この経験から、もっと他の国に行ってみたくなりました。自分の意思を伝えることができたのは、自分の英語力や表現力に大きく自信を持てる結果となりました。この経験を活かし、今後はもっと英語の記事を読んでみたり、他の言語にも触れてみたりと、たくさん挑戦をしていきたいです。（1年 岩月）



私がシンガポール研修で一番印象に残っているのは、マリーナベイサンズでのスペクトラショーです。初めてこのショーを見たので、想像を超える綺麗さと迫力に感動しました。

マリーナベイサンズは、夜景もとても綺麗でした。シンガポール研修ではたくさんの貴重な体験ができた、また行きたいなと思いました。（2年 榊原）



シンガポールでの僕のいちばんの思い出は、マリーナベイサンズと、街中の景色です。マリーナベイサンズ周辺では、高い建物が沢山あり、1番目立つような位置に、マリーナベイサンズがあったので、初めて見た時、圧巻でした。また、建物の高さもとても高く、シンガポール・フライヤーの、最高地点よりも高かったので、それはとても驚きました。



街の景色では、様々で違った言語、絵、表現があり、まちを歩いているだけでも、その景色の中に入り込んでしまうほど、素晴らしかったです。さらに、歩いていて、野生の犬や猫を見掛けることもなく、更に



はゴミもほとんど落ちていなく、日本で栄えている地域で、シンガポールほどゴミが落ちてないところがあるだろうかと思うほど綺麗でした。夜景もとても綺麗で、マリーナベイサンズから花火が上がったりして、高い建物がとてもホテルから映っていました。

(2年 徳倉)

私の一番の思い出はシンガポールのガーデンズ・バイ・ザ・ベイで、まず夜に行われた光のショーを鑑賞しました。巨大なスーパーツリーが音楽に合わせて美しく輝き、色とりどりの光がリズムに乗って変化する様子はとても幻想的で、まるで違う世界にいるようでした。広い園内全体がイルミネーションに包まれ、夜風を感じながらその美しさを堪能できたのは本当に贅沢な時間でした。写真や動画では伝わらない迫力とスケール感に圧倒されました。

翌日、昼間はスーパーツリーの上にあるスカイウェイに上りました。地上から見上げると大きな木のような形をしたスーパーツリーも、上に登るとまったく違う景色が広がります。高い位置からガーデンズ・バイ・ザ・ベイ全体やマリーナ・ベイ・サンズ、シンガポールの街並みを見渡して、とても開放的な気分になりました。下から見た光のショーの余韻を思い出しながら、昼間の緑と都会の景色を一緒に楽しめたのが印象的でした。光と自然、近代的な都市の融合を体感できた、忘れられない経験です。(2年 酒井)



私のシンガポールでの1番の思い出は、B&Sです。中でも大学生と一緒に現地のスーパーで買い物に行ったことが思い出です。現地のスーパーは、日本では見たことのないものが沢山ありました。大学生おすすめのお菓子などのお土産を買いました。スーパーということもあり安く買うことができて、良かったです。

日本のお菓子などを大学生に紹介しました。私たちが行ったビボシティは、1階から3階までがスーパーになっており、品揃えがよく、見るだけでも楽しかったです。試食などもありワインナーを食べたのですが、蜂蜜のような甘い不思議な味がしました。ドリアンも沢山売っていました。匂いが凄かったです。他の観光地では、味わえない現地ならではの体験ができた楽しかったです。（2年 鈴木）



私の一番の思い出は、シンガポール国立博物館です。日本にある歴史についての博物館は、日本から見た歴史を展示してあるのに対し、シンガポール国立博物館はシンガポールから見た歴史が展示されていて、見方が変わりました。シンガポールから見たら、こういう風に見えていたのだと、感動した覚えがあります。日本の戦車や、軍服も飾られており、少し驚きました。途中から、Axis Power 対 Allied Power ではなく、日本 対 Allied Power になっていて、イタリアとドイツハブかよ！！と思いました。というか、日本 対 Allied Powers はとんでもない構図だなと思いました。日本強すぎる。まあ、シンガポールは一時期日本の植民地だったので、そういう意味でのこういう構図なのかな、と思いました。しかし、日本の支配について繰り返し教えられたので、日本人からすると、とんでもなく申し訳ないし、出た後に罪悪感が募りました。ごめんなさい。個人的には、大航海時代のスペインとポルトガルでハッピーな気持ちになりました。シンガポールには全く関係ないけど、この二国の出現で幸せになれました。シンガポール国立博物館では、シンガポール目線の戦争についてよく知れたので、とても良かったし、面白かったです。（2年 伊藤）

私の一番の思い出は、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイで見た夜のショーです。昼間に訪れたときも美しかったけれど、夜になると雰囲気はまったく変わりました。巨大なスーパーツリーが音楽に合わせて光り出し、まるで生きているかのように動いているように見えました。曲が流れるたびにライトの色が変わり、赤や青、緑の光が夜空を彩りました。その光景はまるで未来の都市にいるみたいで、とても幻想的でした。私は夢中で写真や動画を撮りましたが、実際に見た景色の迫力や美しさはカメラでは表せません。ショーの最後に、ツリーが一斉に輝いた瞬間、思わず「すごい！」と声を出していました。その時間だけは、日常を忘れて特別な世界に入り込んだ気分でした。あの光と音のショーは、私の中で一生忘れられない大切な思い出になりました。（2年 杉浦）



僕のシンガポール研修で1番印象に残っているのはマーライオンパークです。シンガポールのイメージはマーライオンって感じだったので実物を見てとても嬉しかったです。この瞬間シンガポールに来てるんだなと強く再認識しました。マーライオンのところからはマリーナベイサンズも見えて、空も晴れ渡っていたので景色がとても綺麗でとても印象に残っています。もしさまた来ることがあれば、ここは必ず来たいなと思いました。（2年 杉浦）

私がシンガポール研修で一番印象に残っていることは、現地の大学生とディスカッションを行ったことです。私の発表では、インターネットの情報をもとに『日本とシンガポールの職業選択の時に重要視する点の違い』について述べました。その発表を聞いてもらった後のアドバイスを貰った際に、インターネットの情報の違う点などを教えてもらいました。それを聞き私は、現地の人の実際の声を聴いてみる重要性を学びました。他にも自分の英語を使うことによって、少し自信を持てる様になりました。以前までは言いたい事もチャレンジして言えず、後から後悔してしまう事が多々ありました。しかし、現地の大学生はとてもやさしくて自分たちの話を一生懸命聞いてくれていたので、挑戦して積極的に会話することができました。今では英会話が研修前よりも楽しく感じるようになりました。班の人の提案で遊んだUNOも、ちょっとした話題について英語で話しながら遊んだので緊張をほぐすことができました。班の人のことを改めてよく知ることもできて、とても楽しい交流になりました。今後私は、この経験を生かして様々なことに挑戦していきたいです。（2年 藤川）

私が今回の研修で1番印象に残っていることは、ドリアンを食べたことです。果物の王様と言われているから、臭くても美味しいのかと思ったけど、なんとも言えない独特な味がしました。前から気になっていたので今回食べられたことは、いい経験になったけど、もう食べたくないです。（2年 梅井）

私がシンガポールで一番印象が残っていることは、B&S プログラムで行ったビボシティのスーパーです。日本で売っているものも多くありましたが、ない物の方が多く特にお菓子が変わったものが多い印象でした。

私たちの班についてくれた大学生の方が、お菓子や食べ物で美味しいものを勧めてくれたのですが、私が一番感動したのは、コーラとグミでした。この二つはあまり好きではなかったのですが、日本のものよりも甘くておいしかったです。また、ワインナーが試食で出ていて食べようと大学生の方が誘ってくれたので、食べてみたら、日本では食べたことのない変わった甘さがして、それの好き嫌いが分かれて、皆で英語で対話したことはとても面白かったし、楽しかったです。これをきっかけに大学生との距離が縮まって、買い物中や帰り道でいろんな話題がでたり、話したいことを話せたりしたのが嬉しくて、英語をしゃべることへの不安感が減ったし、とても貴重な体験をさせてもらったと思います。

（2年 樋口）

シンガポールのガーデンズ・バイ・ザ・ベイに行って、想像以上に感動しました。高くそびえるスーパーツリーは圧倒的で、近くで見るとその大きさと美しさに息をのむほどでした。ドーム型の温室には、色とりどりの植物や珍しい花がたくさん集められていて、まるで異国の森を歩いているような気分でした。歩きながら香る花の香りや、木々の緑に囲まれる心地よさは格別で、自然の力を肌で感じられました。夜になるとスーパーツリーがライトアップされ、幻想的な光と音楽の演出に心を奪われ、まるで未来の庭園に迷い込んだかのようでした。自然の美しさと人の創造力が融合したこの場所で過ごす時間は、忘れられない貴重な体験でした。（2年 岡田）



私のシンガポール研修での1番の思い出はMBSスペクトラショーです。音楽と光、水の演出が一体となり、まるで夢の世界にいるような気分になりました。噴水に映し出されるカラフルなレーザーの演出がとても幻想的で、思わず見入ってしまいました。特に水面に広がる光の反射は圧巻でシンガポールの夜景と一体となり忘れられない体験になりました。今回の研修では人がたくさんいて、ちゃんと見ることができなかつたので、次シンガポールに行ったときはもっとちゃんと見たいなと思いました。また行きたいです。(2年 半嶺)



僕がこのシンガポール研修で一番印象に残ったことは、シンガポールの歴史や多民族国家による良い点がある中で、暴動やデモといったことが実際に起きていたことに驚きました。どこに行っても色々な人種の方たちがいて、とても仲が悪かったとは思えませんでした。B&Sプログラムや異文化交流の意見交換会などで話を聞いて、よりシンガポールの歴史について深掘りすることが出来ました。また、日本の文化や生活との違いについても驚かされました。様々な人種の方がいる中で、それぞれの文化や生活に違いがあり、とても興味深かったです。祀っている宗教や服装、食べ方なども違っていてとても勉強になりました。このシンガポール研修を通じて、よりシンガポールの歴史や文化について知ることが出来ました。(2年 中村)

私が一週間のシンガポール研修で一番思い出に残っていることは、B & S プログラムで行ったリトルインディア地区です。インドには行ったことがありませんが、本場のインドに近いものを感じました。街並みや交通状況、万引き防止対策、売り物などが独特でどれも本当に興味深いものばかりでした。客引きの人には「你好」や「안녕하세요」などとばかり言われ、一度も「こんにちは。」を聞けることがありませんでした。

昼に行ったナンが食べられるお店では、店員さんが「Are you Japanese?」と聞いてきて「yes.」と答えた後にめちゃくちゃ笑顔になっていたことがすごく印象に残りました。ナンはとてもおいしかったです。友達が頼んだカレーを少し分けてもらいながら、食べましたが辛かったです。でも、やっぱりおいしかったです。オレンジジュースを頼みましたが、最初はオレンジジュースだと思えないくらいスムージーでした。味はそこそこのでした。（2年 鈴木）



## おわりに

今年度のシンガポール研修には、22名の生徒が参加しました。まず、生徒全員が大きな問題なくシンガポールで研修を終え、無事に帰国できたことを嬉しく思います。また、この研修を実施するにあたり、ご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

今年は、世界水泳のシンガポール開催に伴い、例年行っていたヤクルト企業訪問がなくなり、その代わりに「異文化交流プログラム」が新たに加わり、これまでとは少し異なる形の研修となりました。異文化交流プログラムでは、グループになり、大学生と日本とシンガポールの違いについて話し合い、英会話を楽しみました。生徒たちは、事前研修で日本の文化や生活についてグループで調べ、シンガポールと比較しながらプレゼンテーションを準備しました。当日、大学生に発表し、質問を受ける中で「自国について知ることの大切さ」を実感したと思います。また、生徒自らもいろいろな質問を考えて会話を深めようとする中で、コミュニケーションの難しさや面白さを学ぶことができました。

さらに「ブラザー＆シスター」プログラムでは、生徒たちが自分で計画を立て、大学生に伝えて市内を案内してもらう体験をしました。中には、大学生のおすすめの場所に連れて行ってもらい、観光客だけでは体験することができないであろう“ディープなシンガポール”を知ることができた班もありました。大学生としっかり英語でコミュニケーションをとり、たくさんの話を聞き、さまざまな場所を案内してもらうなかで、日本とは違う文化を体感できたようです。こうして異文化に触れ、日本との違いを感じ取ることは、改めて自己について考える良いきっかけにもなりました。

そして今回の研修で何よりも大切なのは、「挑戦すること」でした。参加を決めたこと自体が大きな挑戦であり、現地では英語の講義を受けたり、ドリアンを食べてみたり、自分から積極的に話しかけ英会話に挑戦したり、ホテルでトラブルが起きた際に自分で対応したりと、様々な場面で勇気を出して一步踏み出す姿が見られました。これら的一つ一つの挑戦は、生徒たちのこれから的人生において必ず糧になるはずです。

最後に、生徒たちには今回の経験を通して学んだ「挑戦することの大切さ」を忘れずに、これからも新しいことに挑戦し続けてほしいと願っています。（亀山）



